

DOCUMENT TRANSMITTING DEVICE

Patent Number: JP9214718
Publication date: 1997-08-15
Inventor(s): MATSUDA SHIGEMUTSU
Applicant(s): SHARP CORP
Requested Patent: ☐ JP9214718
Application Number: JP19960022220 19960208
Priority Number(s):
IPC Classification: H04N1/32; G06F13/00; H04L12/54; H04L12/58
EC Classification:
Equivalents: JP3368134B2

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To easily set destination information of an opposite party at the time of transmitting a document by an electronic mail or FAX, etc.

SOLUTION: A destination information storage part 11-2 for storing destination information required to transmit the document of respective telephone numbers, FAX numbers and mail ID, etc., to the plural destinations such as home and a company, etc., by individual is provided. A counting part for judging at least one of whether the document is the private one or the business one, whether or not the destination exists in the document or which transmitting method is selected, etc., so as to output the destination from the destination information storage part 11-2 based on the judgement result or to count the times of transmission to the respective individuals is provided. Then, an output is preferably executed concerning the individual with a larger number of transmission times.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平 9 - 2 1 4 7 1 8

(43) 公開日 平成9年 (1997) 8月15日

(51) Int. Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 N 1/32			H 0 4 N 1/32 F	
G 0 6 F 13/00	3 5 1		G 0 6 F 13/00 3 5 1 G	
H 0 4 L 12/54		9466 - 5 K	H 0 4 L 11/20 1 0 1 B	
12/58				

審査請求 未請求 請求項の数 5

O L

(全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平8-22220

(22) 出願日 平成8年 (1996) 2月8日

(71) 出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(72) 発明者 松田 栄睦

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ

ャープ株式会社内

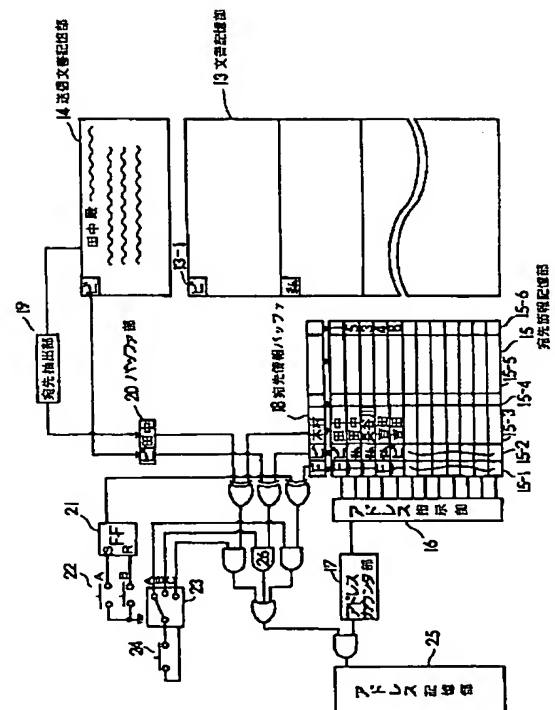
(74) 代理人 弁理士 佐野 静夫

(54) 【発明の名称】 文書送信装置

(57) 【要約】

【課題】 電子メールやFAX等で文書を送信する場合、相手方の宛先情報の設定を簡単に行えるようにする。

【解決手段】 個人別に、自宅や会社などの複数の宛先に対して、それぞれ電話番号、FAX番号、メールID等の文書送信に必要な宛先情報を記憶する宛先情報記憶部11-2を設け、文書送信に際して、私用文書であるかビジネス文書であるか、文書中に宛先があるか否か、いかなる送信方法を選択するか等の少なくともいずれかを判断して、判断結果に基づき、上記宛先情報記憶部11-2より、宛先を出力するか、各個人に対する送信回数を計数するカウント部を設け、送信回数の多い個人を優先して出力する文書送信装置。



【特許請求の範囲】

【請求項1】電子メール、FAX等の複数の送信手段により文書の送信を行う文書送信装置において、送信する文書に対し、その文書が私用文書であるか、ビジネス文書であるかを選択する選択部と、該選択部で選択した選択結果を文書に対して対応付けて記憶する記憶部を設けたことを特徴とする文書送信装置。

【請求項2】請求項1に記載の文書送信装置であって、個人別に自宅や会社などの複数の宛先に対して各々電話番号、FAX番号、メールアドレス等の送信に必要な宛先情報を記憶した宛先情報記憶部と、作成した文書を上記送信手段により送信する際に、送信する文書が私用文書であるか、ビジネス文書であるかを判断する判断部と、該判断部の判断結果に基づき上記宛先情報記憶部より、宛先に対応する私用或いは、ビジネスのいずれかの送信先の宛先情報を出力する出力部とを設けたことを特徴とする文書送信装置。

【請求項3】電子メール、FAX等の複数の送信手段により文書の送信を行う文書送信装置において、予め個人別に自宅や会社などの複数の宛先に対して各々電話番号、FAX番号、メールアドレス等の送信に必要な宛先情報を記憶した宛先情報記憶部と、作成した文書を上記送信手段により送信する際に、作成された文書中に宛先が含まれているか否かを判断する判断部と、該判断部で宛先が含まれていると判断したときには、上記宛先情報記憶部より上記宛先に対応する宛先情報を出力する出力部とを設けたことを特徴とする文書送信装置。

【請求項4】電子メール、FAX等の送信手段により文書の送信を行う文書送信装置において、個人別の宛先に対して各々電話番号、FAX番号、メールアドレス等の送信に必要な宛先情報を記憶した宛先情報記憶部と、作成した文書を電子メール、FAX等にて送信する際に、各個人に対する送信回数を計数するカウント部と、カウント部の計数の多い個人を優先して宛先情報記憶部より宛先情報を出力する出力部とを設けたことを特徴とする文書送信装置。

【請求項5】電子メール並びに、FAXにより文書の送信を行う文書送信装置において、個人別に宛先に対応した電話番号、FAX番号、メールアドレス等の電子メール並びに、FAX送信に必要な宛先情報を記憶した宛先情報記憶部と、送信方法を選択するアイコンと、アイコンの選択にตอบสนองして上記宛先情報記憶部より送信に必要な宛先情報を宛先と共に表示する表示部とを設けたことを特徴とする文書送信装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、電話回線等の通信手段を利用して特定の装置（人）に対して複数種類の送信手段により文書の送信を行うことが可能な文書送信装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、電子メールやFAX等により文書を送信する場合、宛先の選択は、単にデータベースのリストからユーザーが選択する方法が取られていた。個人に対して送信する場合でも、会社へ送る場合と、自宅へ送る場合とでは、文書の送り先が変わるのが普通である。

【0003】又、例えば、特開平5-235956号に記載されているように、所望の配布媒体（電子メール、FAX、電話等）での伝送に障害が生じた場合、代用の伝送媒体を自動的に選択する方法が考案されていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

＜請求項1の課題＞従来技術は、作成した文書に対してユーザー自身がファイル名を付けて管理してに止まっており、その文書が私用文書であるかビジネス文書であるかは、文書を読み返し、確認する必要があった。

【0005】本発明はこれに対して、作成した文書の内容が私用文書であるかビジネス文書であるかを作成した文書に付随する情報より容易に確認できるようにすることを目的としている。

【0006】＜請求項2の課題＞従来技術は、作成した文書に対してユーザー自身がファイル名を付けて管理してに止まっており、その文書に関わる属性や宛先を文書自身に記憶させることができず、ユーザーがすべての送信リストから宛先を選択する必要があった。

【0007】本発明は、これに対して、作成した文書の内容が私用文書であるかビジネス文書であるかを記憶させ、この記憶結果に基づき選定された送信リストを出力することができるようにすることを目的としている。

【0008】＜請求項3の課題＞従来技術は、作成した文書に対してユーザー自身がファイル名を付けて管理してに止まっており、その文書に関わる属性や宛先を文書自身に記憶させることができず、ユーザーがすべての送信リストから宛先を選択する必要があった。

【0009】本発明は、これに対して、文書中の宛先から自動的に宛先情報を出力することができるようにすることを目的としている。

【0010】＜請求項4の課題＞従来技術は、作成した文書を送信する場合に、ユーザーがすべての送信リストから宛先を選択する必要があった。

【0011】本発明は、これに対して、過去の送信回数より優先度を付けて宛先情報を出力させることができるようにすることを目的としている。

【0012】＜請求項5の課題＞従来技術は、作成した文書を送信する場合に、ユーザーがすべての送信リストから送信方法に合った宛先を選択する必要があった。

【0013】本発明は、これに対して、送信方法を選択することにより、宛先情報記憶部より、上記送信方法に対応した宛先情報を表示できるようにすることを目的と

している。

【0014】

【課題を解決するための手段】本発明の文書送信装置は、電子メール、FAX等の複数の送信手段により文書の送信を行う文書送信装置において、送信する文書に対し、その文書が私用文書であるか、ビジネス文書であるかを選択する選択部と、該選択部で選択した選択結果を文書に対して対応付けて記憶する記憶部を設けた構成にする。

【0015】従って、送信する文書に対し、その文書が私用文書であるか、ビジネス文書であるかを選択して、文書に対して対応付けて記憶させておくことができるので、文書の種別を確認することができる。

【0016】また、本発明の文書送信装置において、個人別に自宅や会社などの複数の宛先に対して各々電話番号、FAX番号、メールID等の送信に必要な宛先情報を記憶した宛先情報記憶部と、作成した文書を上記送信手段により送信する際に、送信する文書が私用文書であるか、ビジネス文書であるかを判断する判断部と、該判断部の判断結果に基づき上記宛先情報記憶部より、宛先に対応する私用或いは、ビジネスのいずれかの送信先の宛先情報を出力する出力部を設けた構成にする。

【0017】従って、送信する文書に対し、その文書が私用文書であるか、ビジネス文書であるかを選択して、文書に対して対応付けて記憶させておくことで、宛先情報記憶部より、宛先に対応する私用或いは、ビジネスのいずれかの送信先を出力部に出力することができる。

【0018】また、本発明の文書送信装置は、電子メール、FAX等の複数の送信手段により文書の送信を行う装置において、予め個人別に自宅や会社などの複数の宛先に対して各々電話番号、FAX番号、メールID等の送信に必要な宛先情報を記憶した宛先情報記憶部と、作成した文書を上記送信手段により送信する際に、作成された文書中に宛先が含まれているか否かを判断する判断部と、該判断部で宛先が含まれていると判断したときには、上記宛先情報記憶部より上記宛先に対応する宛先情報を出力する出力部を設けた構成にする。

【0019】従って、作成した文書を電子メールやFAX等の送信手段で送信するとき、作成した文書中に宛先が含まれているか否かを判断部が判断し、含まれていると判断した場合は、その宛先に対応する宛先情報を出力部により宛先情報記憶部から自動的に出力することができる。

【0020】また、本発明の文書送信装置は、電子メール、FAX等の送信手段により文書の送信を行う装置において、個人別の宛先に対して各々電話番号、FAX番号、メールID等の送信に必要な宛先情報を記憶した宛先情報記憶部と、作成した文書を電子メール、FAX等にて送信する際に、各個人に対する送信回数を計数するカウント部と、カウント部の計数の多い個人を優先して

宛先情報記憶部より宛先情報を出力する出力部を設けた構成にする。

【0021】従って、作成した文書を電子メールやFAX等の送信手段で送信するとき、カウント部に予め計数されている送信回数の多い個人より優先して宛先情報記憶部に記憶されたその個人の宛先情報を出力部に自動的に出力することができ、各個人に対する送信回数より、宛先情報記憶部から導出する宛先情報の優先順位を制御することができるようになる。

【0022】また、本発明の文書送信装置は、電子メール並びに、FAXにより文書の送信を行う装置において、個人別に宛先に対応した電話番号、FAX番号、メールID等の電子メール並びに、FAX送信に必要な宛先情報を記憶した宛先情報記憶部と、送信方法を選択するアイコンと、アイコンの選択に応答して上記宛先情報記憶部より送信に必要な宛先情報を宛先と共に表示する表示部を設けた構成にする。

【0023】従って、作成した文書を電子メールやFAX等の送信方法で送信するとき、アイコンにより送信方法を選択し、選択した送信方法に対応する送信に必要な宛先情報を予め記憶している宛先情報記憶部より宛先と共に導出して、表示装置に表示する。アイコンを選択する簡単な操作で文書の送信に必要な宛先情報を宛先と共に表示することができる。

【0024】

【発明の実施の形態】電子機器に入力された文書やメッセージなどの情報をその電子機器からメールやFAXで送信する場合、その宛先の設定や送信手段の選択を自動或いは、極めて平易で簡単な操作により行えるようにすることが望まれている。

【0025】図1は、電子機器100に入力された文書やメッセージを電話回線を介して電子メールやFAXで会社や個人のパソコン101、103やFAX102、104に送信する場合の概念図であり、105はパソコン通信サービスを示す。通常、送信する文書が、ビジネス文書である場合の送信先は会社であり、私用文書であれば自宅に対して文書を送信することになる。

【0026】しかしながら、文書を会社或いは、自宅へ送信する場合、パソコン等を利用した電子メールに対して送信する方法と、FAXに対して送信する方法等があり、同一宛先でも複数の送信方法が考えられる。

【0027】本発明は、このような場合の文書送信時における送信先の宛名を簡単に設定できるようにした文書送信装置に関するものであり、そのシステムブロック図を図2に示す。

【0028】図2において、2-1は薄型で文字を表示可能なマトリックス方式からなる液晶表示部であり、該液晶表示部2-1には必要に応じてELパネル等よりなるバックライトを背面に設けても良い。2-2は、上記液晶表示部2を覆う大きさを有する透明タブレットであ

り、該透明タブレットは例えば、透明なシート2枚の内側面に透明電極を設け通常状態において各々の電極が接触しないように、小さな突起状のスペーサが規則正しく印刷された構造をしており、指或いはペンで押圧すると、対向する透明電極が接触し、選択された位置を透明タブレット2-2にて検出することを可能としている。

【0029】又、液晶表示部2-1で表示された表示内容との位置情報の同期を取ることでにより使用者が選択した液晶表示部2-1の位置を検出することができるようになっている。

【0030】4は、透明タブレット2-2より座標情報を取り出すためのタブレット制御部であり、透明タブレット2-2に対しては、一方の透明シートに設けられている透明電極に接続されており、指或いは、ペンで指示された位置を上記両透明電極の接触により検出し、座標検出を行っている。

【0031】5は、液晶表示回路部であり、液晶を点灯させるドット位置をビットマップとして記憶しており、必要に応じてコモン回路6、セグメント回路7に信号を送る。8は、中央制御部であり、各種命令により入力情報或いは出力情報を制御するものである。9は、図示していないクロック信号により時間を計時するRTCであり、現在の時間を出力している。12は、外部の装置との送受信を行うためのモデム部である。

【0032】10は、ROMであり、上記中央制御部8の動作を制御するプログラムを記憶したプログラムエリア10-1、液晶表示部2-1に表示する文字のフォントを記憶した情報エリア10-2、及びタブレット制御部4で検出された座標を表示位置に対応する座標に変換するための変換情報を記憶した座標変換記憶エリア10-3等を有している。

【0033】11は、RAMであり、使用者が上記液晶表示部2-1や、透明タブレット2-2より成る入出力部より入力した文書等の文字情報を記憶する文字記憶部11-1、送信先アドレス等を記憶する宛先情報記憶部11-2及び表示情報、各種フラグ等を記憶しているバッファ部11-3を有している。

【0034】図3は、本発明の動作を説明するためのブロック図である。図3において、13は、文書記憶部であり、作成した文書を複数記憶する記憶領域を持っている。文書記憶部13に記憶されている文書は、文書記憶時にその文書が、私用文書であるか、或いはビジネス文書であるかの確認が装置から行われ、その選択結果が種別記憶領域13-1に1、或いは、0として記憶される。ここでは説明を簡単にするため私用文書が選択された時には「私」、ビジネス文書である時には「ビ」と表現する。14は、送信すべき文書を一時的に記憶する送信文書記憶部であり、文書記憶部13から送信する文書を選択しても良いし、或いは、ユーザーにより直接入力を受け付けても良い。

【0035】15は、宛先に関するアドレス情報が記憶されている宛先情報記憶部であり、予め送信しそうな宛先に対する情報がユーザーにより記憶されている。15-1は、送信先の装置の種類が記憶されている装置記憶領域であり、ここでは、送信先が電子メールであれば「T」、FAXであれば「F」を記憶している。15-2は、送信する先に関する情報が記憶されている送信先情報記憶領域であり、私用文書の送信先については「私」、ビジネス文書の送信先については「ビ」を記憶している。

【0036】15-3は、送信先の宛名が記憶されている宛名記憶領域であり、15-4は、送信に必要な情報、例えば送信速度、電子メールであれば相手先のID番号等を記憶する領域であり、15-5は送信先の電話番号が記憶されている領域であり、15-6は、送信回数を記憶する領域である。16は、アドレス指示部であり、宛先情報記憶部15のアクセス位置を指示するもので、アドレスカウンタ部17の値に応答して順時宛先情報記憶部15の情報を宛先情報バッファ18に記憶させるように働いている。

【0037】19は、宛先抽出部であり、送信文書記憶部14より宛先を抽出するものであり、例えば、「殿」「様」等の宛先に付随する文字を検索し、その文字の前に付いている文字を抽出することにより宛先の抽出を行う。20は、バッファ部であり、宛先抽出部19にて抽出された宛先並びに文書の種類が設定されている種別記憶領域13-1の内容が記憶される。

【0038】21はフリップフロップ回路であり、選択スイッチ22のA、或いはBを選択することによりセット、リセットされる。選択スイッチ22は、送信する文書を電子メールに送信するか、FAXに送信するかを選択するものであり、例えば、表示上にアイコン等の表示にて代用することもでき、指示のたびに反転させることによりボタンを一つにすることも可能である。

【0039】24は、セレクトー部23を順にセレクトさせるためのスイッチであり、スイッチ24の入力に回答してセレクトー部23は、A、B、Cの順に選択を行う。この場合、AでFAX、或いは電子メールの送信方法による宛先情報の抽出を選択し、Bで送信文書に設定されている私用かビジネス用かの文書の内容による宛先情報の抽出を選択し、Cで宛名による宛先情報の選択を行うことができるようになっている。25は、表示すべき宛先情報記憶部15の宛先情報を記憶するアドレス記憶部である。

【0040】上記の構成において、今、仮にビジネス文書を田中さん宛に送信する例を用いて動作を説明する。送信する文書は、入力等により送信文書記憶部14に保持され、その文書に付属されている文書の種別（ビジネス）をバッファ20に「ビ」として記憶し、文書中より宛先抽出部19により宛先「田中」が抽出され、バッファ

ァ 20 に記憶される。抽出する基準を選択すべくスイッチ 24 でセレクト部 23 を B に移動させ文書種類により抽出を行うとする。

【0041】アドレスカウンタ部 17 及びアドレス指示部 16 により宛先情報記憶部 15 の宛先情報を宛先毎に順次、宛先情報バッファ 18 に置き換えて記憶する。宛先情報バッファ 18 に記憶された宛先情報の文書種別と、バッファ 20 に記憶されている文書種別とが一致した時、アンド回路 26 より信号が発せられ、アドレスカウンタ部 17 の値がアドレス記憶部 25 に順次記憶される。

【0042】即ち選択候補の宛先アドレスが保持され、これに対応する宛先情報を表示することにより、候補の選択を可能としている。スイッチ 24 により「C」（宛先順）が選択された場合も同様である。「B」、「C」共に送信する文書からの情報を基に宛先情報の検索を行うようになっているが、「A」を選択した場合は、ユーザーがスイッチ 22 を操作し送信手段を選択しその結果に基づき検索・抽出を行うことになる。

【0043】図 4 は、本発明の動作を説明するためのフローチャートである。図 4 において、まず、ステップ S 21 で送信する文書やメッセージを作成し、その文書やメッセージ（以降、文書と呼ぶ）に対して、その文書が私用文書なのかビジネス文書なのかをステップ S 22 で設定することができるようになっている。これは、以降に説明する F A X 番号等の自動選択を可能にするためである。

【0044】次にステップ S 23 で、メール及び F A X 送信設定画面にし、スイッチ 22 及びフリップフロップ回路 21 により F A X 送信を選択した場合ステップ S 24 へ、またメールを選択した場合ステップ S 36 へ進み、ステップ S 25 或いは、ステップ S 37 で文書中に宛先があるか否かを検索する。

【0045】宛先が文書中にあればステップ S 26 或いは、ステップ S 38 で宛先情報記憶部 15 から同じ宛先を自動的に選択して設定を行う。もし、ステップ S 25 或いは、ステップ S 37 で宛先が文書中に見つからない場合は、ステップ S 27 或いは、ステップ S 39 で宛先リストを呼び出し、手動での宛先選択を行うことになる。その際、宛先を送信回数の多い人だけのリストから選択することも可能である（ステップ S 28、S 29、S 30 或いは、ステップ S 40、S 41、S 42）。

【0046】次に、前述の内容で選択した宛先に対する F A X 番号やメール I D 等の選択に移るが、ここでは、ステップ S 22 で設定した私用文書かビジネス文書の属性を利用することにより、私用文書であれば私用、ビジネス文書であればビジネス用の F A X 番号やメール I D 等を宛先情報記憶部 15 から自動的に選択して設定する（ステップ S 31、S 32、S 33 或いは、ステップ S 43、S 44、S 45）。

【0047】これにより、F A X 送信或いは、電子メール送信の設定が殆ど自動的に完了する（ステップ S 34 或いは、ステップ S 46）。もし、この状態で F A X 送信と電子メール送信を切り替えたい場合は、ワンタッチの操作で切り替えることが可能である（ステップ S 48、S 49 或いは、ステップ S 50、S 51）。そして、ステップ S 35 或いは、ステップ S 47 で、送信する操作を行うことにより F A X 送信或いは、電子メール送信が実行される。

【0048】

【発明の効果】ある個人に対して電子メールを伝送したり、F A X を送信したりする場合、F A X や情報機器が普及している今日では、その送る場所が自宅であったり会社であったりするものが普通となってきた。これに対し、本発明では上記の構成により、文書の内容に合わせて自動的に送信先を選択したかたちで表示選択することが可能となり、ユーザー宛先設定の手間を削減することができる。

【0049】また、文書やメッセージを送信する際、宛先を指定する必要があるが、本発明では、送信しようとした際に、自動的に文書の宛先を検索し、検索した宛先に相当する宛先情報を宛先情報記憶部から選択及び設定するので、宛先設定の操作を簡略化でき、スムーズな送信が可能になる。

【0050】また、本発明では、送信回数の多い人だけに絞りこんだ中から宛先情報を選択することができるので、少ない人数から選択が可能となり、宛先設定の操作を簡略化することができる。また、電子メールと F A X 送信の切り替えをワンタッチの操作で行うことができるので、伝送手段によって情報が欠落する場合でも、他の伝送手段に自在に変更することができ、更には、伝送手段の切り替えにより、F A X 番号等も自動的に変更され、使いやすい機器を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の概念図である。

【図 2】 本発明のシステムブロック図である。

【図 3】 本発明の動作説明に用いるブロック図である。

【図 4】 本発明の動作説明に用いるフローチャートである。

【符号の説明】

2-1 液晶表示部

8 中央制御部

11 RAM

11-2 宛先情報記憶部

11-3 バッファ

13 文書記憶部

14 送信文書記憶部

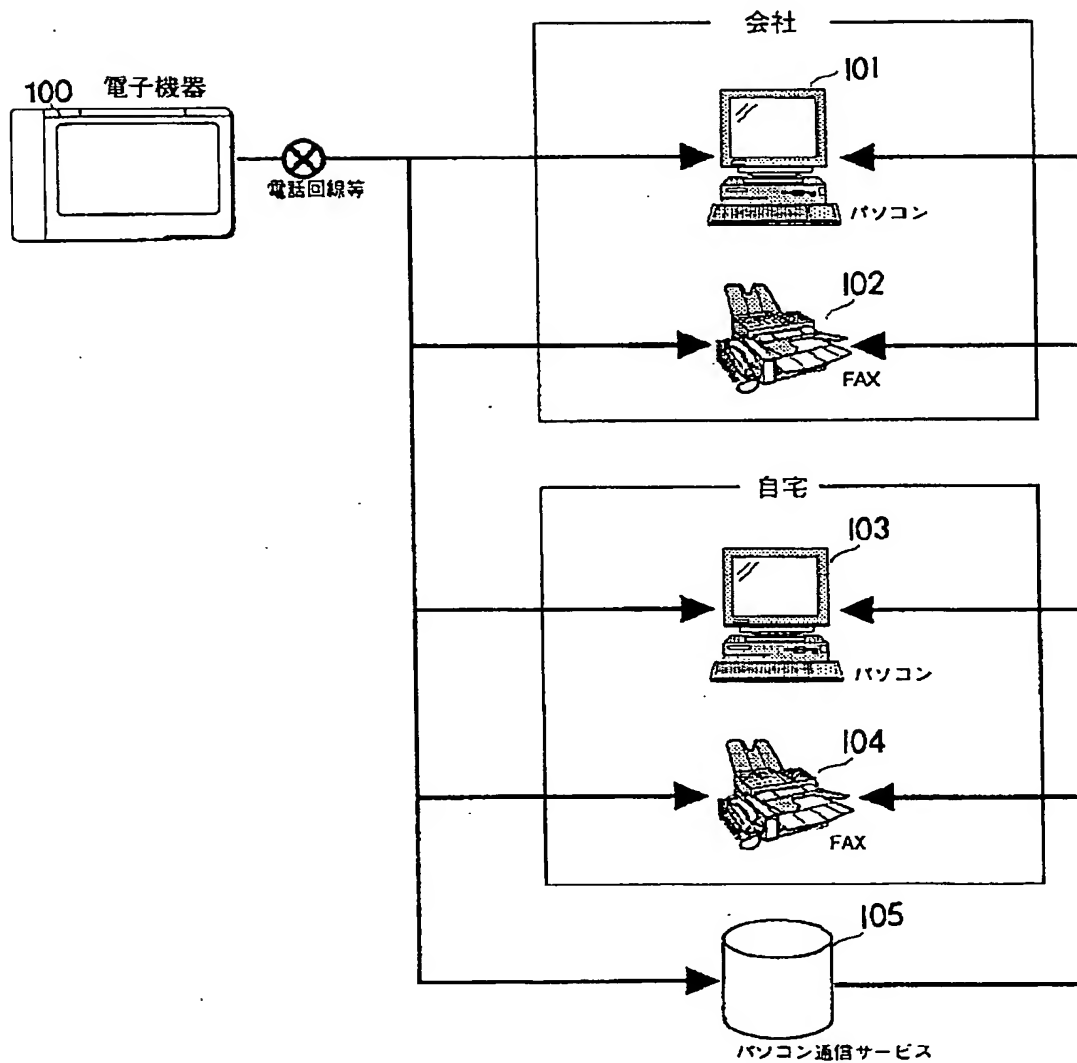
15 宛先情報記憶部

50 16 アドレス指示部

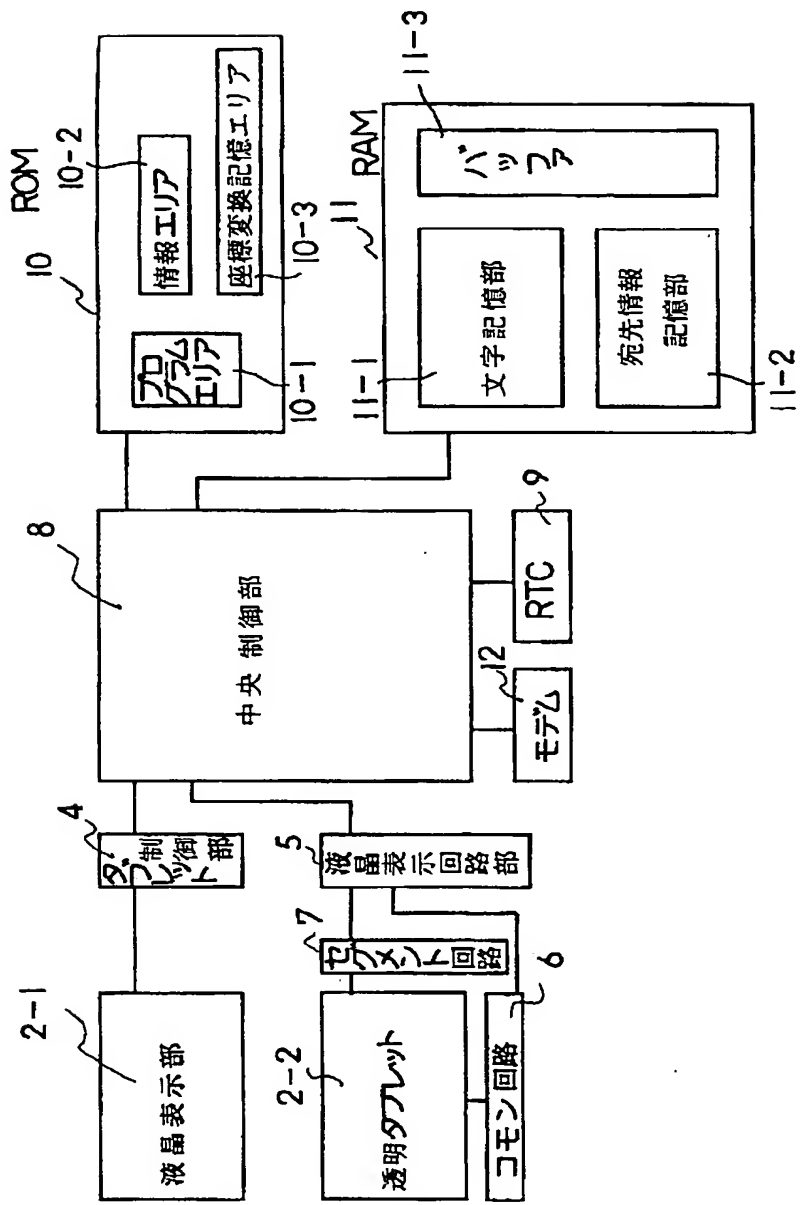
- 17 アドレスカウンタ部
- 18 宛先情報バッファ
- 19 宛先抽出部
- 20 バッファ
- 21 フリップフロップ回路
- 22 選択スイッチ
- 23 セレクター部
- 24 スイッチ

- 25 アドレス記憶部
- 26 アンド回路
- 100 電子機器
- 101 パソコン
- 102 FAX
- 103 パソコン
- 104 FAX

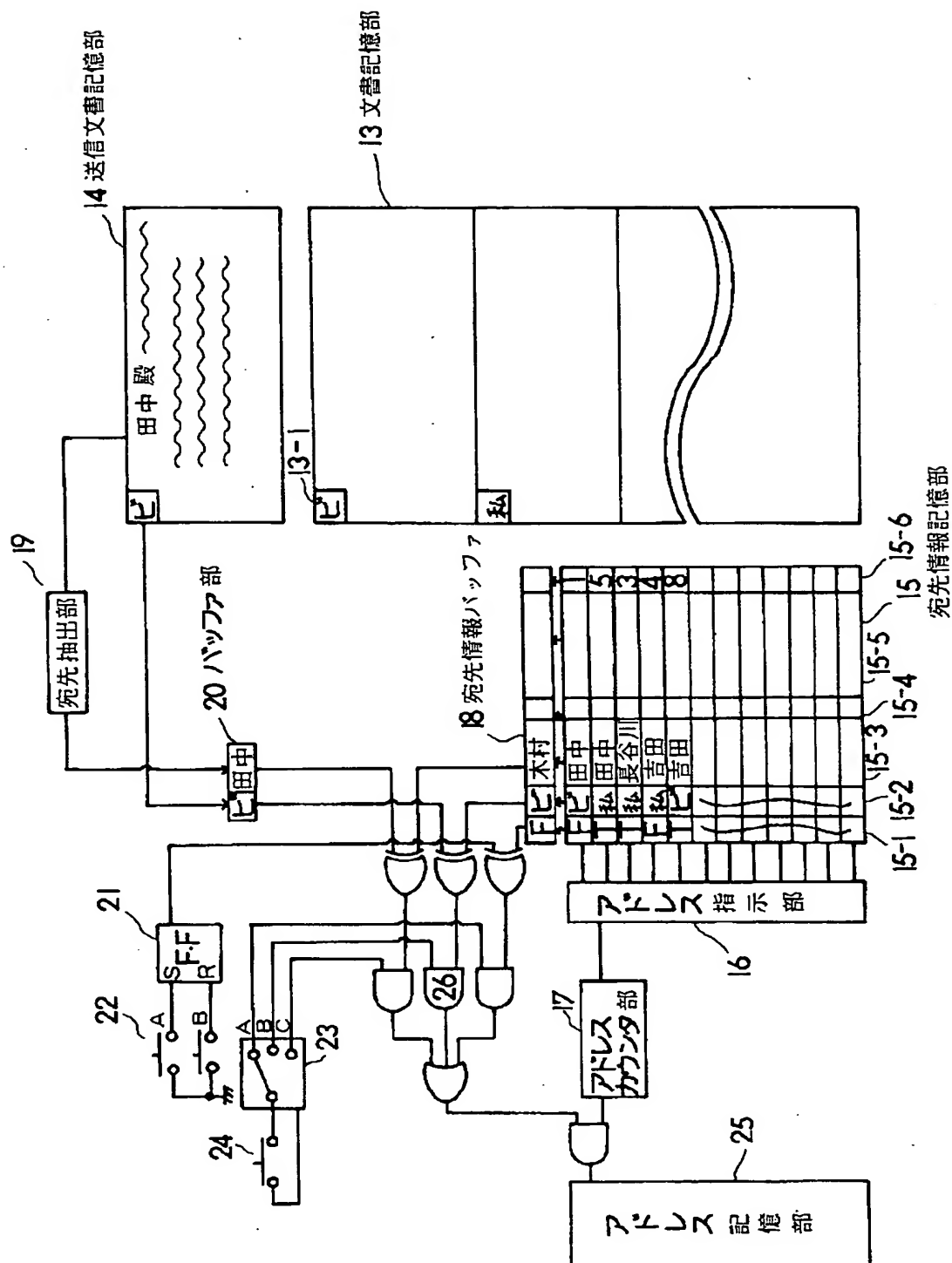
【図1】



【図 2】



【図 3】



【図4】

